タイトル「長期災害避難生活への備え」

１趣旨：東北地震と大津波災害後もそうだった。その後の熊本地震災害の後も、本年の西日本豪雨災害のあともそうだ。災害の備えというと、家庭ではこれまで一週間程度の水や食料等の備蓄、地域では警報への敏感な対応、避難の実行が言われてきた。

が、避難先、例えば公民館や体育館へ移ったあとがつらく問題になるとあまり知られていなかった。着る物、食料、布団への配慮が主流だったが、長期となるとそれでは済まない。暮らすという視点から避難生活への備え、あるいは対応の万全を図る必要がある。

２提案：

ア　災害避難先へのトイレの確保：既存の施設でとにかく不足するのがトイレである。時間が集中するときはとても不便する現状が指摘されている。加えて必要な内容は男子１に対し女子３だ。これを解消するために「トイレカー」を提案する。男子用、女子用を供えたボックス式のトレーラーということになる。１台ごとにトイレの数は多ければ多いほど良い。北海道、東北、関東など地方ごとに自治体が費用を負担し、保管を図り、必要な場所に赴くということになる。保管は現状では消防署ということになろうか。もちろん、要請により、隣りの地方への出張役立ちもありとする。

イ　災害非難先へのキッチンの確保：トイレと並びこちらも既存の施設でとにかく不足するのがキッチンである。朝、昼、晩と必ず集中するのが特徴である。即席の食料、ボランティアによる炊き出しなどの支援もあるが、毎日毎時となるとそれでは済まない。これを解消するために「キッチンカー」を提案する。ガス、水道、調理具などを供えたミニ台所を数個供えたボックス式のトレーラーということになる。１台ごとにトイレの数は多ければ多いほど良い。北海道、東北、関東など地方ごとに自治体が費用を負担し、保管を図り、必要な場所に赴くということになる。保管は現状では消防署ということになろうか。もちろん、要請により、隣りの地方への出張役立ちもありとする。

３効果：長期避難となると、それも人数が多いと、どうしてもそれ以前の日常に近い状況を供えることが必要になる。食べる、出すという、人が生きるために基本中の基本を最低限満たそうとするのが本提案の「トイレカー」と「キッチンカー」の提案である。

　具体の避難者は自分よりまだ苦労をしている人がいるはずという思いからなかなか言い出せない人が多いと聞く。が、アンケートをすると以外な項目が出てくることが知られている。そして最も多いのが食べることと出すこと。高齢者が多くなる社会ではこれらが最も切実なはずであり、それを満足させる「トイレカー」と「キッチンカー」である。

　本提案の実施検討が広域危機管理意識の醸成と更なる必要な対策を講じるきっかけになり、結果的に自治体による災害対策が肉厚になるという波及効果が期待できる。